

東アジア レビュー

2024年11月号

[HTTP://EARI.JP/](http://EARI.JP/)

- 【視点】 朝鮮半島に飛び火したウクライナ戦争
姜英之 …1
- 【南の窓】 波乱呼ぶ与党代表の刷新主張
編集部(Y/J) …3
- 【北の窓】 北朝鮮のウクライナ戦争派兵の高い代価
編集部 …4
- 【紀行】 移民とロシアがイタリアの課題統合を維持へ
小野田明広 …5
- 【編集後記】 「ハト派の石破」と韓国は幻想 編集部 …7

【視 点】 朝鮮半島に飛び火したウクライナ戦争

姜 英之 （東アジア総合研究所理事長）

無人機(ドローン)めぐり、南北が応酬

韓国からの無人機とみられる飛行物体が平壤上空に飛来し、北朝鮮当局が南側による領空侵犯として非難、これに対し韓国政府は、「確認できない」として否定し南北間で非難の応酬が繰り返される中、10月19日、北朝鮮国防省報道官は朝鮮中央通信を通じて韓国軍が運用するドローンと同一機種 of 無人機残骸を平壤で発見したとし、関連写真を公開した。「韓国軍部の連中による重大な主権侵害挑発が決定的物証の確保とそれに対する客観的かつ科学的な捜査を通じて明白に確認された」と発表した。金正恩総書記の実妹、金与正労働党副部長が談話で「無人機報復」を示唆するや、韓国軍合同参謀本部は10月28日「北朝鮮の無人機が南に浸透してくれば、国民の安全と財産を守るため応分の措置を取る」と一歩も後に引かない強硬姿勢を示した。

北朝鮮は今年に入って核・ミサイル挑発を強めており、米国・韓国との一戦も辞さない臨戦態勢に入っている。「強対強」の強硬姿勢を崩していない。一触即発の状態にある南北関係において、相互の「無人機報復」合戦が本格的な南北軍事衝突につながる危険性を無視することはできない。

北ロシア派兵で戦争長期化、拡大も

南北間の軍事的緊張が高まる中で、北朝鮮軍兵士がロシアに派遣され、ウクライナ戦争に参戦する事態はウクライナ戦争の長期化、拡大化をもたらす戦争被害者を増大させるものだけに憂慮に堪えない。

北大西洋条約機構（NATO）のマルク・リッター事務総長は10月28日（現地時間）ブリュッセルの同本部を訪問した韓国政府代表団と会見した後の記者会見で「北朝鮮兵士がロシアに移送され、北朝鮮軍部隊がロシアのクルスク地域に配置されたことを確認した」と明らかにした。リッター事務総長は韓国政府代表団とウクライナに対する軍事支援強化について協議したとし、NATOとしてウクライナ及びインド太平洋同志国と共に状況展開について協議中だと明らかにした。同事務総長は「北朝鮮軍の派兵はロシアの不法戦争関与への重大な緊張拡大行為だ」と非難した。

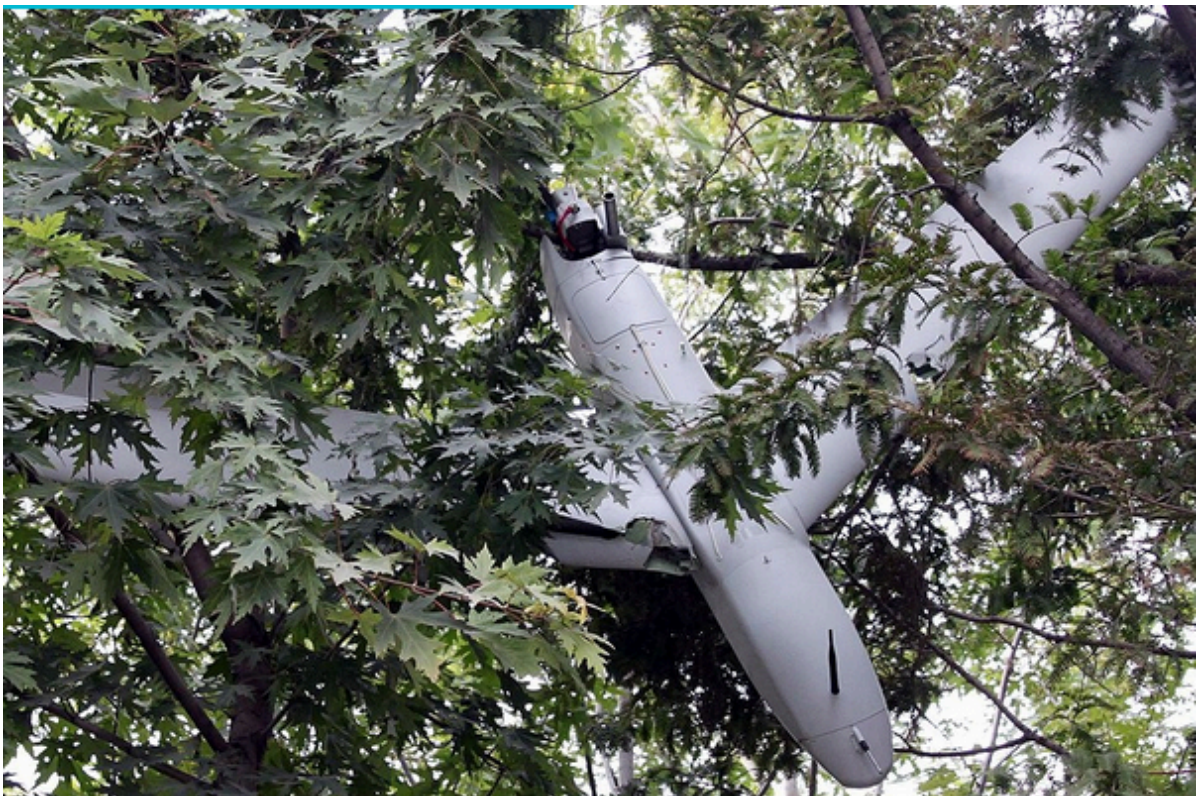
__北朝鮮軍のウクライナ戦争への参戦は、ウクライナ戦争が朝鮮半島に飛び火した格好だが、南北間の軍事衝突の可能背が高まっている中で、北朝鮮がロシア側につき、韓国がウクライナ側につくことで、ウクライナ戦争の世界大化を促し、やがて米国、日本、中国をも巻き込み、「覇権主義国」と「民主主義国」の第3次世界大戦の発火点になることが予想される。これは大変な事態で、大戦阻止の国際世論が緊急に望まれる。

韓国の尹錫悦大統領は10月29日ウクライナのゼレンスキー大統領と電話会談し、「韓国政府は、我が国安保をロシア・北朝鮮の軍事的結託を座視するわけにはいかない」とし「実効的な段階的対応措置を取る」とウクライナ支援を述べた。これまでウクライナへの人道支援にとどめていた協力がロシア中心部を攻撃できるミサイル兵器供与にまで拡大される可能性がある。

尹大統領はロシアの対北軍事技術支援も問題だが、1950年の朝鮮戦争以降、現代戦を経験したことがない北朝鮮がウクライナ戦争で得た経験を100万を超える北朝鮮軍全員に修得させるなら我が国の安保に大きな脅威となる」と懸念を表明した。韓国の子供軍人団体である在郷軍人会は28日、数千人の会員がソウル市内に結集しデモを敢行、ロシアは北朝鮮軍を弾除けに利用し、兵士の命の代価として金正恩に金を与え助けていると、非難した。

1960年代後半、ベトナム戦争に米国の要請で韓国軍が派遣され、北ベトナムと闘った。今でも、参戦した韓国軍兵士たちは加害者としての心の痛みを抱えて苦悩している。

今また北朝鮮軍がロシアの傭兵として、犠牲者となるのは、忍び難いものがある。遠い遥かヨーロッパまで出かけて他国の地で南北同胞が戦い合うのは悲劇としか言いようがない。



北朝鮮が発表した「韓国無人機」

【南の窓】 波紋呼ぶ与党代表の刷新主張

編集部(Y/J)

尹大統領夫人の非理問題が焦点

韓国与党「国民の力」の韓東勳代表は、10月30日、国会内で代表就任100日を迎えての記者会見を行った。韓代表は「国民が懸念する問題に対して果敢かつ先制的に解決策を提示し、貫徹しなければならぬ」と述べた。

韓代表は「発想を転換し変化し刷新してこそ、野党の横暴を止めることができる。その基準は民心である」と訴えた。旧態依然の保守政党である「国民の力」代表として変化と刷新を強く求めるのは異例のことで、その背景を探ってみる。

韓代表は、「年金・医療・教育・労働など4大改革は過去のどの政府も成し遂げられなかった課題であり、これ以上避けることのできない党と政府が一体となって推進しなければならない課題である」としながら、だが、「国民の失望と懸念に阻まれて改革が思うように進展していないのは残念である」とため息をついた。

改革を阻んでいる国民の失望と懸念とは何か？ 韓代表は公的な場の会見とあって明示的には語らなかったが、最大の焦点は尹錫悦大統領夫人、金健希女史の一連の非理問題に対する世論の非難が収まっていないことである。

韓代表は金女史問題に関して女史の対外活動の中断、大統領府の人的刷新、疑惑究明協力を大統領府に求めてきたが、大統領府はこれに頑強に反対、尹大統領擁護に回り、大統領府と与党の間で深刻な軋轢が生じた。

大統領府の幹部たちは韓代表に辞任を突き付けたが、韓代表はひかなかった。大統領制の政治体制であるが、確立した政党政治の下で、大統領府が一方的にきたが、大統領府はこれに頑強に反対、尹大統領擁護に回り、大統領府と与党の間で深刻な軋轢が生じた。大統領府の幹部たちは韓代表の辞任を突き付けたが、韓代表はひかなかった。大統領制の政治体制であるが、確立した政党政治の下で、大統領府が一方的に与党代表を解任する権限はない。

韓代表は尹大統領が検事総長であった時の部下であり、子飼いともしわれた。政治経験

の浅い韓氏が法務部長官に抜擢されたのも尹大統領の格別のひいきであった。だが、いつまでも親分子分の関係は続かなかった。法務部長官を経て国会議員となり、与党代表選挙に打って出て代表に就任するや独り立ちの政治スタートを切った。従来なら帝王的大統領制の韓国政治において与党政治家は、大統領に絶対的に従ってきたのが常であるが、韓代表は違った。ここに韓国政治の新しい発展の芽がみられる。つまり、国会が大統領の言いなりに動く「お飾り」になってはいけないという認識がある。当然、与党も大統領府の言いなりにあってはいけない、ということだ。韓代表は言う。「国民の力はいま絶体絶命の危機にある。今問題を解決しなければ、我々には明日がない」とし、「政権再創出の主体に国民の力がなろうとすれば、我々が問題解決の主体にならなければならない」と強調した（聯合ニュース2024年10月30日）。

次期大統領選挙を見据えた布石

韓代表の状況認識と決意は時代の動きにかなっている。韓代表は、過去に与党が大統領府に追従してきた悪弊の是正を求めている。

「過去と異なり、水平的な党・政府関係への転換こそ国民の力に課せられた至急の課題であり、そうしてこそ国家の後退を防ぎ政権再創出が可能となる」と強調した。

最新の世論調査では、尹大統領の支持率が20%と史上最低に落ち込んでいる。「公正と常識」を高々と掲げ、圧倒的高支持率でスタートしたものの、国らしい国を作ると豪語しておきながら、公正なき非常識な国家運営をこり押しする尹政権に対し国民の批判意識は相当高まっている。

韓代表の発言は、与党の代表としての危機意識をそのまま反映したものであり、3年後の大統領選挙に出馬意欲を持つ政治家としての布石とみられるが、韓国保守政治家としては勇気ある態度とまっとうな政見と評価されてよいだろう。

【北の窓】北朝鮮の派兵の高い代価

編集部

人民の反発を呼び起こす可能性

韓国が北朝鮮のウクライナへの派兵問題を非常に強く警戒し、対応に苦慮している。

北朝鮮兵士のロシア派遣が確認されるや、韓国政府はこれを重大視し、10月22日大統領府で申源湜国家安保室長主宰で緊急国家安全保障会議（NSC）常任委員会を開き北朝鮮軍のウクライナ戦争への派遣・参戦について論議し、北朝鮮軍の即時撤収を要求すると同時に今後ロシアの対北軍事支援の強度に応じて段階的に対応措置を取ると警告した。

これと関連して、韓国大統領府は今後段階的状況に応じて韓国政府がウクライナに対して「攻撃用武器」まで提供することを検討していると明らかにした。

ゼレンスキー大統領は、北朝鮮軍のロシア派兵に関してウクライナ戦争が国際化したと述べた。ヨーロッパ地域だけでなく、アジア太平洋域まで巻き込んだ世界大戦になりつつあることを示唆した発言だ。

看過できないのは、北朝鮮がロシアへの派兵による見返りとして軍事技術の支援を受けることだ。軍事偵察衛星関連技術、核・大陸間弾道ミサイル技術だけでなく、通常の戦略兵器、北朝鮮の弱点である防空関連軍事技術など、北朝鮮の軍事力強化につながるとして米日韓安保協議関係者は警戒を強めている。米日韓安保関係者が頭を抱えさせているのが、国連の役割を無力化させる点だ。北朝鮮軍のロシア派兵や軍事協力は国連安全保障理事会の決議に違反するものだが、常任理事国のロシアが自分への制裁に賛成するはずがなく、安全保障理事会の空洞化を招き、ひいては国連の役割を低下させることになるのは確実だ。

北朝鮮は、人民の反発を恐れていることがわかる。ロシア側も自国民兵士の徴兵が難しく北朝鮮兵士の導入を進めたが、国際的非難

を恐れて北朝鮮兵士にロシア軍福を期させている。兵士を導入することは国際的非難の対象になるから、北朝鮮兵士には、北朝鮮の軍福を着せていないとされる。若い青年がロシア軍の弾除けのために無駄に生命を犠牲にすることは、人民の反金正恩総書記の感情を呼び起こす可能性があり、当局はそれを警戒しているのだ。

韓国政府は、これまで自制していたウクライナへの攻撃用武器の供与をゼレンスキー大統領から強く求められていることから、履行に踏み切るのは時間の問題と言える。

すると、韓国軍の兵器によって、参戦した北朝鮮軍兵士の死傷者が生まれることになる。遠いヨーロッパの外国の地まで出かけて、南北同族同士が殺し合う悲劇となる。派遣された北朝鮮軍兵士は20代前半、10代後半の年若い青年だと伝えられている。北朝鮮当局は、派兵の事実を国内に報道していない。北朝鮮に韓流文化思想が浸透して、若者の間で少なからぬ影響が出ているとされる。息子を死地にかわせることを喜ぶ親はいない。

ベトナムに韓国軍派兵への教訓どこに？

かつて1960年代のベトナム戦争当時、米国の要請で南ベトナムに韓国軍兵士が派兵されたことに対し、北朝鮮は韓国政府が金のために兵士を米兵の弾除けに使ったと猛批判したことがある。

今、北朝鮮は全く同じことをしようとしている。派兵の見返りに軍事・経済支援を受けることで北朝鮮独裁国家体制は多少延命できるかもしれないが、事態の真相はすぐ人民の知れることとなり、人民の反発を抑えきれないだろう。計り知れない大きな派兵の代価を受け取ることになりかねない。

【紀行】

移民とロシアが伊の課題 統合を維持へ

小野田 明広 (東アジアレビュー編集人)

極右から中道化へと女性首相

昔からの友人に再会するためイタリアにひと月近く観光旅行で行って来た。コロナ禍が一段落した後の久しぶりの旅行だったが、円安ユーロ高が進んでいるためか、日本人観光客の姿をあまり見かけなかった。

イタリア初の女性首相として2022年10月に就任したメルローニ氏は、懸念された「極右色」が目立たぬ方向に動いている。現役を退職したばかりの知人は南部のソレントで暮らしているだけあって「北はいつもと同じに、南部を蔑視しているの」と相変わらず辛口だった。ジョルジャ・メルローニ現首相は北部ミラノ出身、庶民派で人気を集めたベルルスコーニ政権で若手閣僚として知名度を高めてきた。

欧州連合(EU)の中でイタリア政府は「一帯一路」を評価する”親中派”と目されてきた。メルローニ政権になって2023年、この路線を転換、今年7月に訪中して習近平主席と会談、包括的貿易振興に転じている。

目立つ移民問題、仏と対立も

EUの中では、中国との問題に代わって、移民問題が、再び加盟国同士の間で対立の火種になっている。実は従来から、歴史的にどのような植民地と関係を築いてきたかをめぐって、各加盟国の中で移民受け入れについての右派、左派など政治的立場以上に差異の違いが目立ってきた。

旧植民地を抱えていたかどうかの違いには、EU加盟国で大きな違いがある。EUを脱退した英国を別にしても、北アフリカ諸国や(インドシナ、中米諸国などで)長く植民地化を続けてきたフランスと、そうでなかったイタリアの違いは大きい。

去年は前年に比べ3万人近くの移民がイタリアで増え、引き取りをめぐってフランスとの対立が続いた。現在の状況ではアフリカのサハラ砂漠以南から北アフリカを経て地中海への難民船が増える傾向が続いており、イタリア政府は自国の東に海を隔てて位置するアルバニアに難民受け入れ施設を建設しようとしている。

積み上げた統合の実績を守る意思

トスカーナ州のオルチャ渓谷は糸杉の並木で有名な世界遺産だが、その保存にはEUの計画と支援が大きな役割を果たしている。



どうなるウクライナ戦争

耕作地と農家との間隔、家の壁の高さや色合い、刈り取った小麦など農作物の積み上げ場所なども厳しく規制されている。もちろん地方自治体を経てEUから支給される支援金額や手続きが決まっている。世界遺産の景観保護だけでなく、各地方の中核都市に保存された古い建造物には、EUの青色旗が立っている。

「ブリュッセルでEU官僚が、われらの頭越しに物事を決めている」という不満が、特に欧州議会の議員投票の前に、欧州のメディアで高まるのが通例だ。しかし、成果の定着は無視できない実績だ。

外から流入する移民問題は、EU加盟諸国が頭を痛める問題として今後も続きくだろう。同時に、旧ソ連圏をEUにどんなスピードで組み込んだり、凍結していくかも難しいテーマとして浮上する。

ウクライナ戦争が長引く中で、EU東部、冷戦時代に旧ソ連圏だった国・地域の安定性を保っていかれるかも難問として残る。ジョージアは選挙と国民投票で親ロシアの旧政権が勝利したことで、ジョージアの政局は波乱含みとなっている。

中部、北部イタリアの主要都市の中心部にある広場などでは、地方警察だけでなく、カラビニエリ（国家憲兵）が軽機関銃を手にテロ警備をする姿が目立った。

ロシアのウクライナ戦争に抗議して飛行禁止を実施しているため、今回旅行では往復ともトルコ航空機を利用した。カスピ海から中国中央部を横切って大連から韓国を経て羽田まで帰って来た。ウクライナ戦争紛争地の南を飛び、イスラエル絡みの中東紛争がさらに南で続く間を飛んだ。

トルコの経由地は最大都市イスタンブール。日本帰国後に、首都アンカラ郊外にあるトルコの兵器工場でテロリストによる奇襲攻撃が起きたことを知った。

テロ攻撃を仕掛けたのは従来からトルコ国内のクルド人とも関係があると伝えられる団体で、中東各地の反イスラエル勢力とも関係があると目されていた。

巻頭の「視点」が注目するように北朝鮮がウクライナやロシア西部に派兵するような場合には、米大統領選挙後にさらなる近況の高まりを経験する恐れも無視できないかも知れない。

不安な時代がまだ続くようだ。



フィレンツェの大聖堂(ドゥオーモ)

【編集後記】 「ハト派の石破」と韓国は幻想

岸田首相の退陣を受けた自民党総裁選挙は見ものだった。多数立候補者の乱立で混戦を極め、1, 2位の石橋氏と高市氏の決選投票となった。もし高市氏が新首相になったら、靖国神社参拝、歴史認識問題などで韓国、中国との摩擦が必至で、せっかく史上最高といわれるほど改善した日韓関係も再悪化する憂いから、ややリベラルの新首相になりホッとした。

案の定、韓国世論も石破首相誕生にもろ手を挙げて歓迎した。そんな中、「ハト歯の石破」という韓国の幻想、という冷ややかなタイトルのコラムがニュースウィーク日本語版10月22日号に載った。眼を引いた。筆者は木村幹・神戸大学大学院教授である。

木村教授は、石橋氏の戦争責任論と『併合』による韓国民の心の痛みと自尊心損傷への同情心に対し、韓国民は、石橋氏をかつて戦争や植民地支配の責任を認めて平和憲法を護持する「良心的な人びと」と同列視し、対韓国政策に期待を寄せるが、それは、かつては日本で力を持ったが、いまは弱体化している「良心的な人々」への幻想だと説いている。というのは、韓国の世論や裁判所が求めているのは日本政府や企業の法的責任であり、背後にはそもそも日本の植民地支配が違法であるという考え方があるからだと言破する。歴史認識問題において前向きとされる石橋氏らの議論の前提とされているのは、植民地支配の合法性であり、また植民地支配や第2次大戦に関する法的処理は過去の条約により終了している、という理解であり、そのうえで相手国の感情にも配慮すべきだ、というのが議論の趣旨だと解説している。それゆえ幻想だと言っており、幻想が失望に変わらないよう望むと、知韓派知識人の第1人者として善意の警鐘を鳴らしている、おりしも来年は日韓条約締結60周年である。韓国では、最大野党の「共に民主党」が尹政権の対日政策を屈辱外交と強く批判している。最低の支持率を更新している尹大統領が、政権浮揚のためかつての韓国政治指導者の悪弊であった反日の政治的利用を絶対的にしないとはいえ切れない。日韓国交正常化60周年を迎え、さらなる日韓関係発展・深化のため、両国政治指導者が英知を結集し、歴史を前進させることに期待したい。(K)

東アジアレビュー 2024年11月号

第34巻・第8号 通巻 211号

2024年11月4日発行

発行人 姜英之

編集人 小野田明広

発行所 一般財団法人 東アジア総合研究所

TEL 03-6231-2361 FAX 03-6231-2862